

【教育目標】
進んで学ぶ子ども
思いやりのある子ども
たくましい子ども



夢に向かって

～未来を奏でるきらめく感性をもつ児童～

学校だより No. 7
令和5年12月1日
中央台東小学校
校長 松崎 健一

「皆さんで、元気で楽しい自分たちの中央台東小学校を創りましょう。」

持久走記録会 ～たくさんの応援ありがとうございました～

体育科の授業の一環で持久走記録会を実施しました。インフルエンザの流行により2年生は2週間遅れの実施となりました。長い距離を走ることが得意な子もいれば苦手な子もいますが、どう頑張ることができたのかが大事です。子どもたちは、自分の中に潜む弱い気持ちに負けずに、自分のペースで最後まで走りぬくことができました。



「おでかけアリオス」コンサート 11月28日(火)

いわき芸術文化交流館アリオスを通して、声楽家、ピアニスト、チェリストの3名に来校いただき、6年生はプロの演奏を鑑賞しました。目の前で本物に触れることができた子どもたちは、一瞬のうちに音楽の世界に引き込まれていきました。子どもたちのアンコールにも応えていただきました。

風呂敷ってすごいですね！ 11月7日(火)

今年も呉服店根本の店主である 根本紀太郎 様をお招きして、風呂敷講座を実施しました。布1枚なのですが、包み方や結び方を工夫すれば、あらゆるものを綺麗にそして機能的に包んでしまいます。10種類以上の包み方を見せていただきましたが、そのたびに子どもたちは歓声を上げて驚いていました。そして後半は、実際に自分のお気に入りの包み方を体験することができました。風呂敷の美しさと便利さを十分に感じることができた時間となりました。



個別懇談へのご協力をありがとうございました。

短い時間ではありましたが、お子さんの学校や家庭での様子を共有することができたでしょうか。子どもは大人を見て育ちます。身近な大人は、親であり地域の人であり先生ですので、教育という点では家庭と学校が共通して責任をもたなくてははいけません。そうでないと、子どもは自分に都合の良い方向に向くようになってしまいます。今後とも相互に連絡を取り合い、より良い方向へとお子さんを導けるようご協力をよろしくお願い致します。



クリスマスツリーを作ってみました。

個別懇談の際にご覧になった方もいらっしゃると思いますが、職員室前に手作りのクリスマスツリーを飾りました。子どもたちが常に目にする昇降口に建てたかったのですが、倒れないように固定できて、電源が取れるところを探していたので、去年と同じ場所にしました。

材料を紹介しましょう。学校で育てたコキアを白く染めて、それを組み合わせて本体としました。オーナメントは、同じく学校で育てたヒョウタンと学校や自宅付近の公園等で集めた木の实を使いました。マツボックリ、ヤシヤブシ、メタセコイア、ツバキ、モミジバフー、ドングリ(マテバシイ、クヌギ)などです。私のこだわりは材料集めで、なるべく身近にある自然のものを使うことです。ちなみに、今回使ったマツボックリは全て通学路上のもので、マツボックリは1年を通して落ちていきますので、子どもたちの下校指導をするたびに拾い集めていました。



材料紹介コーナー

本校の総括目標に「きらめく感性をもつ児童」とあります。少しでも子どもたちの感性をくすぐるものになればと、思いを込めて手作りしてみました。25日までは飾っておきますので、来校された折にはご覧ください。

基本的な感染対策をお願いします

いわき市内のインフルエンザ及び咽頭結膜熱の感染状況は、ともに「警報継続」となっています。今のところ、本校では流行している状況ではありませんが油断はできません。咽頭結膜熱はアデノウイルスによる感染症で、感染力が強くアルコール消毒が効きにくい特徴があるようです。

つきましては、飛沫感染・接触感染予防のため、咳エチケットや手洗いなどの基本的な感染対策を継続して指導していきますので、ご家庭でもご協力ください。

校長室より

今年度、本校における教職員の授業研究テーマのキーワードは『対話』です。本校の子どもたちは、学習全般において授業への意欲や向上心が高く発展的な内容に向けて学習を進める姿が見られます。ただし、授業の様子からは、自ら進んで発言・発表しようとする姿や、進んで対話し考えを広めようとする姿が少ないとも感じています。「できた」「分かった」「知っている」となると、そこで満足してしまったり、自分の考えに固執してしまったりする場面も見られるのです。また、失敗することを恐れ間違えることを嫌う傾向が強く、自分の考えを積極的に表現できない姿も見られます。

そこで先生方は、日々の授業において、児童同士・学級全体・教師等との「対話的な学び」を生み出す手立てやコーディネートを充実させ、学びを広げ深めていける授業を創ろうと努めてきました。その一端が、先日 50 名を超える先生方を招いて公開した外国語科・外国語活動の授業研究会での子どもたちの意欲的に表現する姿に現れており、参加された多くの先生方から高い評価をいただくことができました。また、教科学習ばかりではなく、10 月に開催した学習の発表会での堂々とした演技ぶりからも、子どもたちの表現する力の高まりを感じていただけたのではと思います。

さて、話は変わりますが、今年度は 24 回のお弁当の日があります。大きな行事等があるときなどに設定しています。お弁当の日については、年度始めに年間予定を文書で配布し、毎月の学年だよりで保護者に伝え、前日の昼の放送で子どもたちにも連絡しています。連絡帳に書く学年もあります。それでも「お弁当の忘れ」は何件か見られます。親だっとうっかりして忘れてしまうときがありますよね。出勤前に担任から連絡が来て慌ててしまった保護者の方もいるかと思います。私は、そんな失敗がたまにはあって良いと思っています。これを機に、親子で「作るの忘れてごめんね。」「私も『明日お弁当だよ!』と言わなくてごめんなさい。」「今度からは、・・・するようにしようね。」と、会話ができればいいじゃないですか。過ぎたことで互いの失敗を責めても仕方ありません。また、「学校が前日にメールで連絡してくれればいいのに!」で片付けたくはありません。メールはとても便利なツールですが、本当に必要な内容やタイミングの時に使用したいと思います。頼りすぎることで失うことも多いのです。



ところで、学校でのお子さんの様子を知る方法として何を思いつきますか。「学校だよりや学年だよりを読む」「ホームページを見る」などがすぐに出てくるかと思います。私が若かりし頃は、お便りは手書きでした。イラスト集を購入し切り貼りして苦労しながら作っていました。今では全て PC で、写真やイラストの貼り付けも簡単にできてしまいます。ホームページで学校の様子をその日のうちに伝えることもできます。カウンターをチェックしたところ、2 学期の今日までの平均閲覧数は 458.8 人/日と、多くの方が見て下さっているようです。ありがたいなと思います。文字ばかりにならないように、そして子どもの様子が伝わるようにと、写真を使いながら教頭先生が作成しています。教頭先生に感謝です。話を戻しますが、学校の様子を知る一番の方法は、親子の会話だと考えています。すると、「家の子は学校のことを話さないんです。」「話を聞いても何を伝えたいのかよく分からないんです。」「話を聞く時間がないんです。」と言う方がいます。だからといって、大人社会のように「全てこの文書に書いてありますのでお読み下さい。」とはいきませんよね。私は、お便りやホームページをきっかけに学校のことを話題に会話をして欲しいと思っています。それには、話し易いように親が仕掛けていくことが大切です。話し方が上手であれ下手であれいいのです。子どもに表現する機会を作って、まずは聴くことです。



最後に、11/30(木)の登校時のエピソードを紹介します。



2 年生の A さんは、いつもより家を出るのが遅かったのか最後の最後で独りぼっちです。でも、左手に 1 枚の葉っぱを手にしてにこやかな笑顔で登校です。すると私の前に来て、「おはようございます。校長先生、これあげます。」と。それは、紅葉したオレンジ色の桜の葉でした。どうしてくれるのかを尋ねると、「だってきれいだったから。」と、さらににこやかな笑顔で一言。

私は「寝坊したの? 家で何かあったの? 班登校しなくちゃだめだよ!」と、大人の先回りで問いたださなくて良かったと思いました。素敵な会話での朝のスタートとなりました。

※ この桜の葉は、すぐに校長室のデスクマットにはさめました。